

[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2016年12月9日]

第77回映画大使「マダム・フローレンス！ 夢見るふたり」

- 期日 平成28年12月4日(日曜日) ※公開4日目
- 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

ニューヨーク社交界の顔にしてソプラノ歌手でもあった実在の女性、フローレンス・フォスター・ジェンkinsをモデルに映画化した音楽伝記ドラマ。

アカデミー賞常連の名女優、メリル・ストリープが、「フローレンス」に扮し、共演者として、「フローレンス」の夫「シンクレア」に『アバウト・ア・ボーイ』のヒュー・グランツやレベッカ・ファーガソン、サイモン・ヘルバーグが参加している。

監督は『クイーン』『あなたを抱きしめる日まで』のスティーヴン・フリアーズが担当した。

1944年、「フローレンス」は、持病を抱えながらも音楽を愛し、莫大な遺産を音楽家のために惜しみなく使ってきた。そんな彼女のかつてからの夢である、ソプラノ歌手になるということを再び取り戻し、レッスンを開くことに。ところが彼女は自分では気づいていないが、歌唱力に致命的な欠陥を抱えていた。

主人公の音楽に対する純粋な気持ちがいつしか人々の心を捉えていくさまと、妻から夢を奪いたくないと奮闘する夫の深い愛をユーモラスなタッチで感動的に描き出す。



(C) 2016 Pathé Productions Limited.
All Rights Reserved

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 涙く良かったですね！
- ☆ 涙く学ばせてもらいました！
- ☆ 私は主人公の夫が一番輝いて見えましたね！
- ☆ 妻ともう一度観たくなりました！
- ☆ 主人公の夫が涙く献身的でしたね！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

この作品は事実の物語を映画化されたという事ですが、「フローレンス」本人の歌もインターネットで聞く事が出来ましたが、映画ほどの歌ではなかったように感じました。少し誇張しているところもあると思います。

主人公役の女優は、上手だなと思いましたね。元々歌が上手な方だからこそ下手に歌う事ができるのだと思いました。

この作品の時代は第2次世界大戦中で、日本はとても悲惨な生活をしていた時代でしたが、上流階級の方の話とはいえ、アメリカはなんて豊かな生活をしていたのだろうと思いましたね。モーツアルトなどはドイツの作曲家で、流れていた音楽もドイツ語でしたので、日本との差を感じました。

夫が妻にとても献身的に尽くしているのが日本では考えられないで、夢みたいに感じましたね。

私は主人公の夫が一番輝いて見えました。

Bさん

妻ともう一度観たくなりました。

音痴の方は子どもの近くで歌を歌っていると音痴がうつるからやめて、と言われると聞きます。小さい子どもは聞いている歌をそのまま覚えるので、しばらくしてそのまま歌っている子どももいるのだという事を思い出しながら観ていましたね。私は音痴ではないのですが。

本当に歌が上手で高音が綺麗にでたり、いろいろな表現が出来たりし、素晴らしいなと思う方もいますが、自分が生きてきた人生を歌に表現して歌うと、音程が外れても心に残って、聞く人を魅了するものなのかなと感じましたね。心に染み入るような歌い方であれば感動するのだろうと思います。

私は良かったなと思いました。

Cさん

私は、前からメリル・ストループさんが好きだったので、楽しみにしていました。この作品を観ていて、彼女の姿や歌は本物のかどうなのか、気になりましたね。それだけでも観る事ができて良かったと思いました。

テーマは勇気と愛情の深さという事だと思いますが、主人公を守ったり尽くしたり支える人達が輝いているなと感じましたね。

また、この作品は考えさせられる良い作品だったと思いました。自分の教訓として、事実だけを見て真実を見ない人にはなりたくないなと思いました。見たままでなく、その奥にある物を感じ取る事のできる自分でいたいなと思いましたね。

凄く学ばせてもらいました。

Dさん

私もメリル・ストループさんが大好きですので、単純に良かったと思いました。

たまたま本日の昼間に、メトロポリタン歌劇場で行なわれたオペラ作品の『ジョンジョバーニ』を映画で観たばかりでしたので、この作品との比較になりましたが、メリル・ストループさんが歌の音程を崩して歌っている事が愛らしくて、可愛らしいなと思いましたが歌を聴いていましたね。

凄く良かったです。

Eさん

主人公役のメリル・ストループさんが、本当は歌が上手なのに崩して歌うという事は難しかったのではないかと思いました。

主人公の夫が凄く献身的でしたね。

Fさん

あんまりにも主人公が音痴すぎてびっくりしたのですが、一流の女優が演じられていたので絵になっていましたし、衣装も舞台も当時の街並みも凄く素敵だったなと思いました。

一番感動したのは、ピアノの伴奏者の方のピアノの音が素晴らしくて温かくて、聴いていて素敵だと凄く感じましたね。

Gさん

音痴の方がなぜレコードを出せたり、カーネギーホールで歌を歌えたりしたのかが不思議で、ずっと考えていたのですが、誰かのために歌を歌いたいという強い気持ちと、それを後押ししてくれる方の愛情があったからだと感じました。夫の愛情は特に凄いなと感じましたし、誰かのために何かをする事の大切さが、心に残った作品でした。

Hさん

私が最初に感動したのは、最初主人公に冷たかったピアノの伴奏者の方が、主人公がピアノを弾くシーンで、さり気なくよってきて音あわせをし、いっしょにピアノを弾いてメロディーを奏でた事です。なんて優しいのだろうと思いましたね。自然に呼吸があうという事に感動しました。

また、登場人物がみんな優しい方達で、何があっても彼女がしたい事を支えてあげたいという心がにじみあふれていました。最初は、なぜ本当のことを言ってあげないのかなと思う時もあったのですが、観ていくうちにそういう愛情表現の仕方もあるのだなと思いましたし、温かいものが随所に感じられましたね。

歌そのものは最初、私も笑ってしまいましたが、観ていくうちに一人の人間の力強さ、生き抜いていく事の力強さを見せつけられたような気がして、とってもホットな気持ちで観させていただきました。

Iさん

この作品はアメリカ人の気質を良く表したよい作品だと思いました。アメリカ人は挑戦する人がいると必ずサポートする人がいるのですが、この作品も挑戦する人を褒めていて、支えているので、その点でもアメリカらしい作品ですね。

映画を見るときに気をつけなさいとよく言われているのは、最初のほうでなぜこの事が出てくるのかと思う事は、最後でその意味がわかるようになるという事ですが、この作品でもありましたね。その事が判ったときには感心しました。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・ピアノの伴奏者の方の演奏に感動しました。

・歌は年をとると高音が出なくなるのですが、本物のフローレンスも、メリル・ストループさんも高音が持続されていたので、レッスンをしていたからですね。本物のフローレンスも、メリル・ストループさんも凄いと思いました。

・フローレンスは、人間としての魅力があり、周りの人にとって優しく温かい人で周りの人を包み込むような方だったのではないかと感じましたね。

・映画も観る人により感じ方が違いますが、歌も聴く人によって感じ方が違うのではないかと思いましたね。

まとめ

この作品は、実在の女性をモデルにし、英国で製作された作品ですが、英國が製作した作品には『英國王のスピーチ』や『マーガレット・サッチャー』のように過去にも真実の重みが心に響く実在する人物をモデルにした良作が多くあります。この作品についても、フローレンスの「伝説」を映画化しており、前述の2作品にも負けぬ良作となっています。

メリル・ストループが演じる「フローレンス」の歌声は、作品を観ている時よりも観終わった後、むしろ今のほうが耳に頭に、そして心に残っています。そうなるのは、やはりフローレンスの人柄や、歌に取り組む姿勢、フローレンスを支える人達の優しさや熱意が、そうさせているのだと感じました。

そして、もう1つは夫シンクレアの献身的な姿を観て、日本人はあれほどまでにできる人はいないだろうとも感じました。

映画も歌もその人により感じ方が違うとは思いますが、何かを行なう事に対する強い気持ちを持つ事と、周りで支える人の大きさを感じていただける作品であり、大切な方とは是非観ていただきたい作品になっています。

劇場の大スクリーンでは是非、ご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をすることができます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・[これまでのひので映画大使](#)
- ・[ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.